

祝辞

設立15周年を祝して

日本医学図書館協会

会長 黒須吉夫
(東邦大学麻酔科学教授)

本年は、近畿地区病院図書室司書の有志が相語らい、貴協議会を設立して以来15年目の記念すべき年とうかがい、同じ医学医療情報の世界に身を置く者の一人として心からなる賛辞と敬意を表する次第であります。

今日、いかなる大図書館と言えども増大する一方の医学医療の情報を自館のみで自足することは不可能であります。ましてやその規模、或は具体的な管理、運用面においても、種々の制約下におかれる病院図書館においては、大学等の大規模図書館に比し幾多の困難が想像されるにも拘らず各病院図書室間の相互協力が着々とその実を結びつつある事は誠に御同慶に堪えません。

思い起こせば私共の日本医学図書館協会がさる1980年、第51回の宝塚総会におきまして病院図書室とのネットワークの形成を議題として討議の結果、圧倒的多数の賛成によりこれが可決されたことを想起せずにはおられません。その後ネットワークの具体化につきましては若干の紆余曲折がございましたが、最近では1987年の第58次総会でその一層の具体化が討議されました。同種の施設団体である病院図書室グループがさらにその外延にある類縁団体と相提携する、すなわち時代は集団と集団との提携が要請される局面に入りつつあるように思われます。また、増加の一途を辿る情報とテクノロジーの発展に伴う情報処理技術の発達、今後の図書館情報機関の在り方に多大の影響を及ぼすであろうと思考されます。一方、学術情報の円滑な流通を阻み兼ねない複写権センター設立の動きや、外国雑誌の年中行事的な異常高騰現象等には、我々医療情報に関与する者にとって共通の問題であり、我々のより一層の相互協力こそが、これら諸問題解決の鍵と言えましょう。

約半世紀前、図書館相互の資料交換、すなわち現在の文献相互協力の実現化を端緒として発足した当協会として、貴協議会へ有形無形の協力を惜しむものではございません。ともに同じ道を歩む集団の一員として、貴会の更なる御発展を願って止みません。

平成2年1月